

柵原町坑道活用農業施設（ふれあい鉱山資料館）

施設管理者 : 柵原ふれあい鉱山公園
施設所在地 : 岡山県久米郡柵原町吉ヶ原 394-2
調査見学時期 : 平成 10 年 11 月 12 日

施設概要

柵原鉱山は、江戸時代に褐鉄鉱の露頭が発見されたのが始まりとされ、坑内掘りによる硫化鉄鉱山として発展した。特に、第二次大戦後の食料増産時代には、硫安肥料の原料として重用され、年間 80 万トンの鉱石を出鉱していたが、産業構造の変化による需要の低迷により、平成 3 年に閉山となった。

現在、鉱石輸送用の駅舎を改装した資料館の他に鉱石輸送用貨車や客車が動態保存されている。資料館は昭和 10 年頃の鉱山の様子や江戸時代の鉱山町の暮らしが再現され、当時の鉱山町の暮らしや、地下 400m にある採掘跡が体験できる。



上：鉱山資料館



左：地下 400m 採掘跡の再現